巻頭特集

造形絵本作家 かつらこ

力強いタッチから繊細な描写まで。
作品の世界観を大切にしながら、
想像の世界をひろげてくれる
作家の想いに触れる。

Profile
1974年岐阜県本巣市生まれ。名古屋芸術大学洋画科卒業。2003年「かっぱたろうとさかなぶえ」でハミングバード賞受賞、絵本作家としてデビュー。現在は絵画の他に陶芸など立体造形にも意欲的に取り組む。

絵が生み出す空想の世界に

多くの子どもと親たちが、育児の中で必ずと言っていいほど触れる絵本。岐阜県本巣市生まれ北名古屋市在住、造形絵本作家のかつらこさんは、その絵本の世界を担う人物の一人である。中学1年生の娘さんを育てながら、作品づくりの構想に取り組む毎日だ。

かつらこさんが絵を描くことの楽しさに目覚めたのは小学生の頃。もともと好きだったこともあり、小学校の休憩時間でもずっと絵を描いていた。出来上がった物を友達にプレゼントすると喜ぶ姿を見て、私の絵で人を幸せに出来るんだと感じた。そんな彼女の最初の夢は漫画家になりたかった、と語る。

「漫画を描いては友だちに見せていました。その時はホラー漫画を描いていて、正直あんまり受けは良くなかったんですよ（笑）」

今でこそ明るい笑顔を見せて過去を語る彼女だが、幼稚園から高校までいじめにあった経験があるという。病気がちで体が弱く、運動も出来ず、校庭で友達と遊ぶことも出来ない……そんな姿を見て絵を進めてくれたのが、小学校3年生の時の担任だった川村克子先生。かつらこさんが描いた作品をコンクールに出品するなど、彼女の絵をサポートしてくれたそうだ。また中学の美術部の先生は、好きな事をめいっぱい伸ばしなさい、とスケッチブックを渡して絵を続けるよう助言してくれた。背中を押されたかつらこさんは中学時代から油彩画を始め、賞を取ることができた。勉強やスポーツではかなわないが、絵なら自分でも人を喜ばせることが出来ると自信に繋がった。中学2年生で絵本作家になる夢を持ち始め、初めて手作りの絵本を制作して夏の自由研究課題で受賞したのもこの頃。かつらこさんの絵本作家としての人生がはっきりと見え始めた。

積極的に絵の道を志すようになり、高校はもちろん美術系に進むつもりでいた。しかし、受験を控えた頃右手を負傷し、自由に動かすことが出来なくなってしまった。その為美術系高校が受けられず、普通科を受験して合格。めげずに美術部の部長となり、全国大会での遠征や受賞歴を重ねた。自分は絵を描くことでしか生きられない、という強い意志から美術系の大学へ進学を決めていたが、お父さんは猛反対。応援してくれるお母さんと二人で懇願し、無事に名古屋芸術大学の推薦入試を受けることが出来た。大学卒業後は春日井市の養護学校で1年間の講師生活を経て、北名古屋市の造形絵画教室講師として10年間子どもたちに絵画・造形などを教えた。そして講師時代28歳の時、とうとう念願の絵本作家として「かっぱたろうとさかなぶえ」にてデビューを果たす。

母として、絵本作家として

31歳の時に結婚し、ご主人の応援もあって創作活動を続けていたが、ほどなくして新しい命を授かった。生まれてくる我が子へ絵本を残したい、そう思い生まれたのが「ながいながーい」「ライオンはかせのはなやさんぶえ」の2作品である。

妊娠中も作品に没頭し「ライオンはかせのはなやさん」を出版したが、ここに至るまでなんと8年もの歳月をかけた。自分でゼロから話を作り、絵を描き、絵本のコンクールに出品したが落選。諦められない気持ちを抱え作品の練り直しを続けていたある日、絵本の編集者である松田素子さんから「会ってみたい」と突然連絡がきた。四日市市の絵本屋メリーゴーランドで絵本の講師をしている時に、かっぱたろうとさかなぶえの表紙を見かけ興味を持ってくれたそうだ。

自分の思いのたけを詰め込んだ本を出版したい、と話すと「あなたの想い読者にもっとを伝えるためにもう一度しっかり本を作りましょう」と告げられる。編集者ならではの忌憚ない意見をもらい、〝本〟という商品としても成立する作品を共に作り上げ、共同作業の末「ライオンはかせのはなやさん」は無事に出版された。ライオンの博士が友達のうさぎくんから博士に似ているというタンポポをもらう。発明好きな博士は簡単に花が咲く発明をして花屋を開くが、急いで咲かせた花は1日で枯れてしまった。博士の研究中もうさぎくんはタンポポの世話をしてきれいに育てていた。それを見た博士は、どんな美しい花よりも急いで育てた花よりも、心がこもったタンポポが世界で一番美しい、と気付く。この作品を通じてかつらこさんは、生まれてくる我が子に、美しい花を咲かせるのであればじっくり時間を掛けて育て、自分だけの美しい花を咲かせてほしいと伝えたかったという。また、「ながいながーい」に関しては自身のお母さんとの思い出が詰まっている。お母さんが編んでくれたセーターがとても嬉しくて〝子育て〟と〝毛糸〟を取り入れながら作り上げた作品。なんと陣痛中も絵を描き続け生まれる直前まで筆を持ち続けたというから驚きだ。

現在は絵画の他にも招き猫の立体像やお面、陶器など幅広い造形を手掛けている。もちろん絵本の創作活動も続けており、新たな作品の構想を練っている最中である。

「もう一度読みたい、大人になっても自分の子どもに読んであげたいと思ってもらえる絵本を作り続けたいです。電子化が進んでいる世の中だけど、お気に入りの絵本はぜひ実物を手に取って読んでもらいたいなと思います」。これからも自身の様々な経験を積んで作品に生かしていきたいと語るかつらこさん、子どもたちに夢とワクワクを与えてくれる今後の活躍に期待したい。

■地元エリアで作品が飾られているお店

□café nɛ:ilo（カフェ ネイロ）
北名古屋市徳重私ノ口1111
TEL 0568-25-5255

□エミール洋菓子店
北名古屋市法成寺道久621-1
TEL 0568-25-7131

■作品が購入できるお店

□古民家・海女の家　五左屋
三重県鳥羽市相差町神明神社参道1406
TEL 0599-33-6770

□MOXPLANはなれ
名古屋市西区中小田井1丁目613
TEL 052-325-2976

□やまねこ亭
岩倉市下本町下市場1341
TEL 0587-37-7890

絵本から飛び出してきたような器は手に取るとほっとするぬくもりが感じられる

長野の中華料理店にて壁画の受注。世界に一つしかない絵を生み出す

作家から依頼があり絵付けをする時も、自身で物語からすべて作り出す時も、大切なのは物語に寄り添うこと

力強さも見える招き猫は〝神聖な物を造る〟という大切な作業だという

力強さを感じる圧倒的な造形